

平成 28 年 度

国・道及び関係機関に対する  
重 点 要 望 事 項

苫 小 牧 市

平成28年度 国・道及び関係機関に対する重点要望事項一覧表

(最重点要望事項)

主たる関係官庁	件名	市の所管部	頁
国土交通省	国道の整備促進	都市建設部	1
	苫小牧港の港湾機能強化と整備促進	産業経済部	2
	JR特急列車の安定運行と日高線の早期復旧	総合政策部	3
北海道	室蘭児童相談所の分室の設置	健康こども部	4
	道立特別支援学校の設置	教育部	5
	苫小牧登別通（仮称）の道道昇格整備	総合政策部	6

(重点要望事項)

主たる関係官庁	件名	市の所管部	頁
財務省	公的金融機関の設置及び昇格	産業経済部	7
	東港区へのコンテナ検査施設の設置及び函館税関苫小牧税関支署の体制強化について	産業経済部	8
文部科学省	社会体育施設の施設整備に係る財源措置の拡充と大規模改修に対する補助制度の創設	総合政策部	9
厚生労働省	国民健康保険制度の健全な運営	市民生活部	10
	季節労働者対策の強化	産業経済部	11
	地域医療の確保	健康こども部	12
国土交通省	樽前山火山砂防事業の促進	都市建設部	13
	胆振海岸保全施設整備事業の促進	都市建設部	14
	高規格幹線道路（日高自動車道）の建設促進	総合政策部	15
	北海道運輸局苫小牧運輸支局（仮称）の設置	産業経済部	16
	新千歳空港国際拠点空港化の促進	総合政策部	17
	空港運営のあり方に関する検討	総合政策部	18
	JR新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	総合政策部	19
	北海道新幹線札幌延伸に伴う対応	総合政策部	20
	苫小牧東部開発の推進	産業経済部	21
海上保安庁	海上保安体制の強化拡充	産業経済部	22
防衛省	航空機騒音対策の促進	総合政策部	23
	米軍機の千歳基地移転訓練に伴う対応	総合政策部	24
北海道	美々川流域の北海道自然環境保全地域指定	環境衛生部	25
	美々川自然再生事業の促進	都市建設部	26
	二級河川の整備促進	都市建設部	27
	苫小牧中央インターチェンジの設置	都市建設部	28
	苫小牧駅前交通広場の再整備	総合政策部	29
	都市計画道路3・2・16臨海東通の道道昇格整備	総合政策部	30
	都市計画道路3・1・2美沢錦岡通の道道昇格整備	総合政策部	31
	都市計画道路3・1・504苫小牧厚真通の道道昇格整備	総合政策部	32
	苫小牧東部地域における苫東地域産業技術総合支援センター（仮称）の早期設置	産業経済部	33
	交番の新設	市民生活部	34

## 国道の整備促進について

継続要望

### ■現状と課題

#### 《国道 276 号》

緑跨線橋は、道内物流や広域的な救急医療活動、災害時の物資輸送など多くの役割を担う跨線橋ですが、幅員が狭いため、慢性的に渋滞が発生し、交通事故等の危険性が指摘されております。また、苫小牧中央インターチェンジ整備も予定されておりますことから、開通後の交通量増加に備えた施策としても、早期拡幅整備に対する地域の期待が年々高まっております。

#### 《国道 36 号》

樽前地区は片側一車線となっておりますが、安全で円滑な交通の確保に加え、樽前山噴火の際には避難路となることから、早期の拡幅整備が求められております。また、市中心部の区間は、緊急時の機能確保や景観への配慮から、電線類の地中化が求められています。

#### 《国道 234 号》

沼ノ端地区の南北を結ぶ区間は、一般車両と港湾物流等の大型車両が輻輳し、特に沼ノ端跨線橋は片側歩道となっております。通学など多くの歩行者が利用し交通量も多いため、早期の拡幅整備が求められています。

### ■要望内容

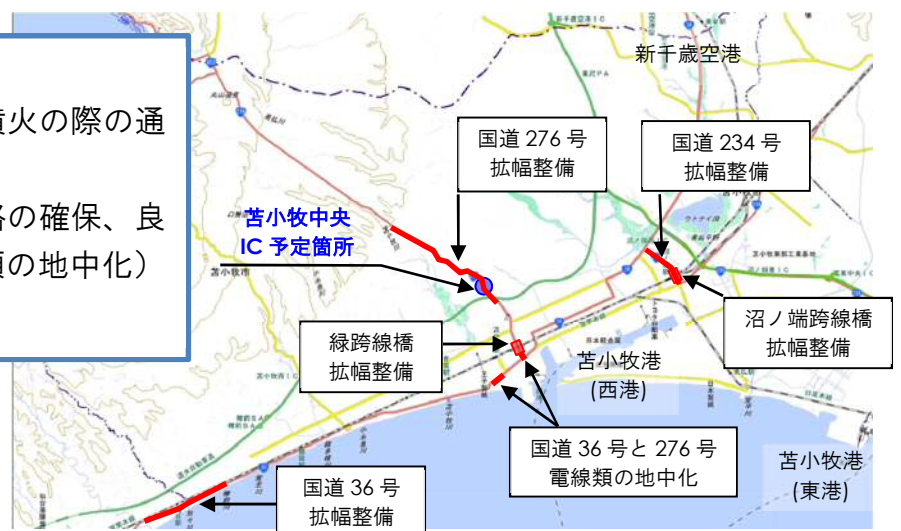
- 国道 276 号 緑跨線橋の拡幅整備（新規着工）  
高丘地区の拡幅整備（継続）
- 国道 36 号 樽前地区の拡幅整備（新規着工）  
市中心街の電線類の地中化（継続）
- 国道 234 号 沼ノ端地区の拡幅整備（新規着工）  
沼ノ端跨線橋の拡幅整備（新規着工）

国道 276 号 緑跨線橋



### ■効果

- 安全で円滑な交通の確保
- 交通事故発生時や樽前山噴火の際の通行機能の確保
- 市街地の災害時緊急交通路の確保、良好な景観形成など（電線類の地中化）
- 歩行者の安全確保



## 苫小牧港の港湾機能強化と整備促進について

継続要望

### ■現 状

苫小牧港は西港区と東港区からなり、西港区では、全国各地とカーフェリーやRORO船による国内定期航路ネットワークが形成され、内貿貨物の取扱量は全国一位となっております。

また、東港区は、北海道の外貿コンテナ貨物の約7割を取り扱い、東アジアを中心とした海上コンテナ物流の拠点としての機能を担っており、平成25年3月には、西港区から国際フィーダー機能を移転し、ターミナル機能の効率化を図っております。

### ■課 題

#### 1 西港区

西港区の港湾施設は老朽化が著しく、中でも西ふ頭岸壁(3バース)については、昭和36年から昭和43年までに整備された施設で、エプロン幅が狭く、非効率な荷役を強いられております。北側の1バースが耐震強化岸壁として平成25年度に完成し、国内幹線物流機能確保のための2バースの内、1バースが平成27年度の供用を予定しておりますが、残りの1バースについても早期完成が必要となっております。漁港区においても物揚場等の老朽化が進んでいるなど、荷役障害が生じており、早急な対応が求められております。

#### 2 東港区

中央ふ頭の苫小牧国際コンテナターミナルにおいては、外貿コンテナに加え、国際フィーダーコンテナの取り扱いを開始しております。本港は、国際戦略港湾である京浜港と航路を有しており、今後、その取り扱いが増加していくものと予想されます。このため、外貿コンテナ及び国際フィーダーコンテナの効率的な荷役作業に対応するための整備及び国際海上輸送網の拠点としてのさらなる機能強化が必要となっております。

#### 3 制度

長期間経過した港湾施設は老朽化が進行していることから、施設機能の健全性維持のための改良・更新コストが増大し、費用と体制の面からも負担が大きくなっております。このため、今後、国直轄事業による国有港湾施設の維持・更新の採択基準の拡大、並びに港湾管理者が行う港湾施設の新設及び維持・更新への新たな補助制度とそれに伴う財政支援が必要となっております。

### ■要望内容

- 西港区 ・複合一貫輸送ターミナル及び臨港道路の整備促進  
・老朽化した防波堤の改良、漁港区の老朽化対策
- 東港区 ・国際コンテナターミナル機能の強化
- 制度要望 ・老朽化した国有港湾施設の国直轄事業での採択基準を緩和・拡大  
・維持管理計画実行のための点検費用への新たな補助制度の創設  
・社会資本整備総合交付金事業の補助率の引き上げ

### ■効 果

- 国内幹線物流機能及び国際海上輸送網の拠点としてさらなる機能強化が図られ、北海道のみならず日本経済の発展に寄与する。



## 【最重点要望事項】

# JR特急列車の安定運行と日高線の早期復旧について

新規要望

## ■現 状

札幌－函館間のJR特急列車については、平成23年5月27日の石勝線トンネル内脱線火災事故を発端とする車両故障事故や火災事故など、人為的ミスが主因とされる多く事故の影響から、減便や減速が続いております。

また、JR日高線においては、平成27年1月7日の高波被害による土砂流出のため、線路の一部が分断され、鷗川一様似間の運休状態が続いており、当該区間はバスによる代行輸送となっております。

## ■課 題

札幌－函館間のJR特急列車の減速・減便により、地域住民はもとより、観光客に対しても交通アクセス面で不便が生じており、当市を含む胆振・日高圏の経済活性化への影響が懸念されております。

また、JR日高線については、代行バスの運行本数が列車より少なく、所要時間も増大しているため、東胆振及び日高方面から当市へ通院・通学されている人々は、時間的制約等により不便を強いられています。

## ■要望内容

- 札幌－函館間の特急列車の便数確保と安全かつ安定した運行
- JR日高線の早期災害復旧及び全区間運行再開、路線の維持確保
- JR日高線の運行再開に向けたJR北海道の主体的な取組による対応

## ■効 果

- 特急列車の利便性向上により観光資源の利用や域内周遊が促進され、当市のみならず、胆振・日高圏の地域活性化が期待される。
- JR日高線の早期復旧により、東胆振・日高圏を中心とした地域住民の利便性が回復される。



JR日高線被災現場  
(新冠町大狩部)

## 室蘭児童相談所の分室の設置について

継続要望

### ■現 状

室蘭児童相談所は、胆振総合振興局・日高振興局管内の4市14町を管轄していますが、平成 25 年度における同相談所での児童虐待通告件数は、当市を含む東胆振地域と日高振興局管内を合わせた1市11町で241件であり、全体の6割以上に及んでいます。

なお、同相談所職員の当市訪問も多く、平成 24 年度においては、虐待対応や要保護児童家庭等の訪問、巡回相談などで延べ430人、平成 25 年度では、延べ494人の家庭訪問及び巡回相談等で同相談所職員が当市を訪れております。

### ■課 題

当市の児童虐待の発生件数は依然高い推移にあり、要保護児童の関係者からの相談や情報提供は相変わらず多く、昨今では養育に関わる相談が急増してきております。

また、室蘭児童相談所が遠隔地にあるため、児童関係者との意思疎通や要保護児童の迅速かつ円滑な対応などに支障をきたしている場合があります。

さらに、知能、発達等検査を希望する方が急増しており、巡回相談では間に合わず待機している状況にあります。

### ■要望内容

- 室蘭児童相談所の職員が常駐する分室の設置

### ■効 果

- 児童関係者との連携が強化
- 要保護児童に対する早期対応が実現
- 判定業務の柔軟な対応



※写真は要望内容とは関係ありません。

## 道立特別支援学校の設置について

継続要望

### ■現 状

当市における特別支援学校の通学指定校である北海道平取養護学校(特別支援学校)には、平成26年5月現在、全校児童生徒74人中、当市の児童生徒(小学部・中学部・高等部)が59人在籍し、そのうち54人が寄宿舍生活を送りながら教育を受けております。

### ■課 題

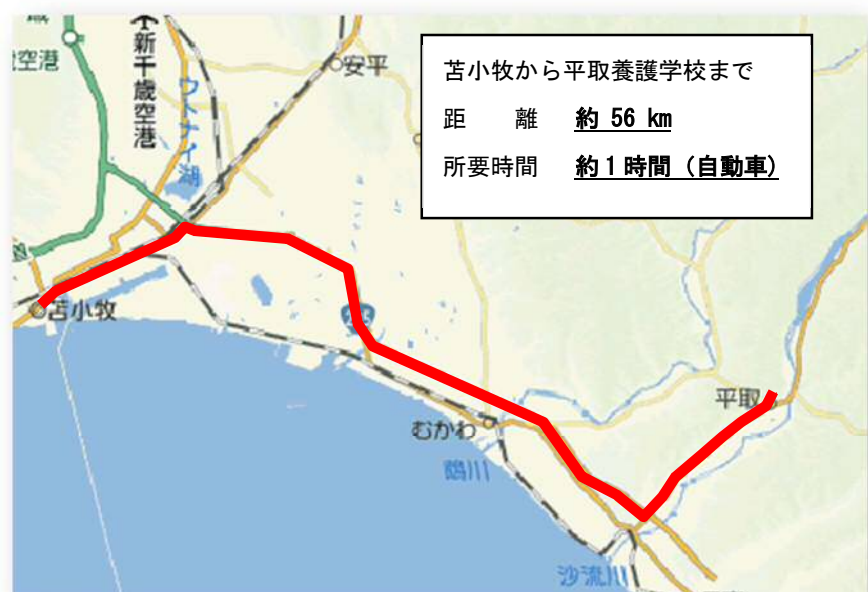
特別支援学校で教育を受けることが適切な児童生徒のうち、食事の制限や薬の服用、医療対応の不安等により寄宿舍生活が困難であったり、家族との生活を大切にしながら自宅から通学させたいとの保護者の強い希望等から、市内の特別支援学級に通学している児童生徒が39人おり、特別支援学級の運営に大きな影響を与えております。

### ■要望内容

- 既存施設の有効活用や平取養護学校の分校開設の可能性も視野に入れた特別支援学校の設置。

### ■効 果

- 保護者の希望や児童生徒個々の障害の程度・状況に応じた、最も適切な教育環境の整備が図られる。



## 苫小牧登別通（仮称）の道道昇格整備について

継続要望

### ■現 状

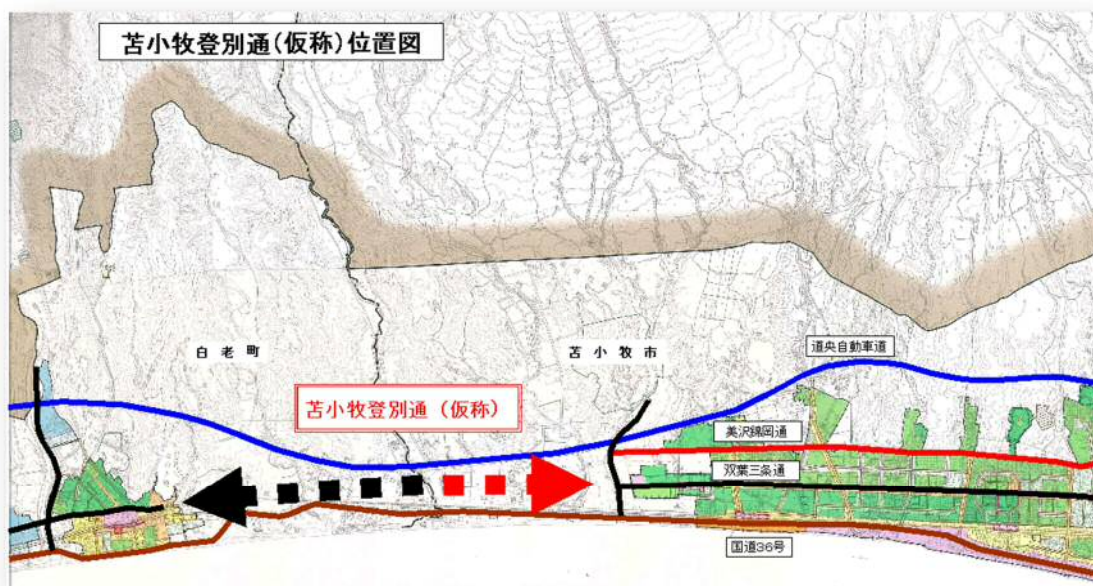
現在、苫小牧から白老までの広域道路は国道 36 号の1路線のみであり、災害時には避難車両が集中し、交通が麻痺する可能性があることから、市民の安心・安全の確保を図るため、新たな広域幹線道路の早期整備が求められております。

### ■課 題

樽前山の噴火など、西部地区住民が避難するための幹線道路は国道 36 号に限られていることに加え、東日本大震災では、北海道太平洋沿岸に大津波警報が発令され、海岸沿いを通る国道 36 号が通行止めになり、災害時の避難ルートに課題を残すなど、地域住民からも不安の声が出ていることから、幹線道路ネットワークの強化を図る必要があります。

### ■要望内容

- 苫小牧登別通（仮称）を道道苫小牧環状線（双葉三条通）へ接続整備



### ■効 果

- 幹線道路ネットワークの強化を図るとともに、災害発生時における代替性の強化が期待される。



## ■現 状

消費税増税や原材料高騰により地元中小企業を取り巻く経営・金融環境が厳しい状況が続く中、公的金融支援が果たす役割は、ますます重要度を増しております。特に本市は日本政策金融公庫の融資件数および金額は極めて多い地区であり、利用者の利便性向上のため、支店昇格が求められています。

## ■課 題

豊富な支援メニューと比較的有利な条件で円滑な資金供給ができる公的金融支援は、地元中小企業や個人事業者への経営基盤の安定・向上を図るため必要であります。

## ■要望内容

- (株)商工組合中央金庫苫小牧事務所の設置
- (株)日本政策金融公庫苫小牧支店への昇格

## ■効 果

(株)商工組合中央金庫)

- 事業組合やその構成員である中小企業者企業規模の拡大・安定を図る事業活動は、地域経済を活性化する有効なポイントになることから、経営基盤の安定・向上に向けた金融支援が可能となる。

(株)日本政策金融公庫)

- 市内の個人事業者や小規模・零細企業、創業者等への金融の円滑化に大きな役割が果たされる。また緊急の金融支援が必要な状況下においても、迅速な対応が可能となる。

## 東港区へのコンテナ検査施設の設置及び 函館税関苫小牧税関支署の体制強化について

継続要望

### ■現 状

苫小牧港は、外貿コンテナ機能を平成20年に西港区から東港区へ移転し、平成25年3月に国際フィーダー機能を全面移転したことにより、平成25年の国際コンテナ取扱個数は、約24万8千TEUと過去最高を記録し、北海道はもとより日本国内の産業や生活を支える国内屈指の物流拠点港湾として、非常に重要な役割を担っています。

### ■課 題

現在、西港区の大型コンテナ検査センターにおいて、検査や通関手続きなどが行われていますが、東港区の苫小牧国際コンテナターミナルから約20km 離れているため、運搬費が大きな負担となっており、また、二酸化炭素排出量の増加や交通事故リスクの拡大が懸念されています。

港湾関係者からは、全道の国際コンテナの約7割を取り扱う東港区国際コンテナターミナル背後に、コンテナ検査施設の設置及び円滑な検査体制の確保を強く求められています。

### ■要望内容

- 東港区へのコンテナ検査施設の設置
- 函館税関苫小牧税関支署の体制強化

### ■効 果

- 従来よりも港湾関係者の業務対応が迅速かつ円滑に行われ、効率化が図られる。
- 片道 20km の距離を大型車が走行していることによる排気ガスの放出や交通事故等のリスクの軽減、物流コストの低減などの効果が得られる。

## ■現状と課題

総合体育館は、昭和 41 年に全国に先駆けてスポーツ都市宣言を行った本市の拠点スポーツ施設として、昭和 48 年の設置以来、毎年多くの市民が利用しているとともに、様々なスポーツ大会等の会場として利用されております。

しかしながら、設置から約 40 年が経過し、アリーナ床面に歪みや劣化が見られ、競技を行ううえで不都合があるとともに、劣化したフローリング材のささくれ等により、怪我や事故の発生が懸念されております。

## ■要望内容

- 施設整備事業に係る補助金の拡充及び大規模改修に対する補助制度の創設  
(アリーナの既存フローリング床撤去、全面張替えが可能となる補助制度)



アリーナ全景



● 老朽化したフローリング

## ■効果

- 事故や怪我の防止等に効果があり、安全面の向上につながる。
- 全国・全道レベルの大会や合宿の誘致に有利となり、地域の活性化につながる。

## ■現 状

国民健康保険は、国民皆保険体制の中核を担い、地域医療の確保や地域住民の健康の維持増進に貢献してきました。しかしながら、被保険者の年齢構成が高く医療費が増加しているほか、所得水準が低く、保険料(税)の所得に占める負担率が著しく高いなど構造的な問題を抱えています。このため、被保険者にこれ以上の負担を求めることは極めて困難なことから、一般会計からの多額の繰入を余儀なくされるという制度崩壊の危機的な状態に直面しています。

このような状況の中、今年1月に決定された「医療保険制度改革の骨子」では、平成30年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、国保運営の中心的な役割を担うこととされています。

## ■課 題

国保の構造的な問題から、依然として、一般会計からの多額な繰入金による財政運営を余儀なくされており、会計の自立化が求められています。また、財政の健全化を推進し、平成30年度の国保の都道府県化に向けた、安定的で円滑な制度運営を図るためには、国及び北海道において財政支援を含めた環境の整備を進めることが急務となっています。

## ■要望内容

- 国民健康保険の都道府県化に向けて、市町村への速やかな情報提供と制度の周知徹底を図るなど、十分な準備期間を設けるとともに、移行に係る経費等必要な財政措置を講じること。
- 都道府県化による、市町村と都道府県の役割分担や保険税の算定方法などについて、市町村の意見を十分に聞き慎重に対応すること。
- 国民健康保険制度に対する財政基盤策の一層の充実を図ること。特に、低所得者に対する負担軽減策をさらに拡充・強化するとともに、低所得者を多く抱える保険者への財政支援をさらに強化すること。
- 強制適用事業所であるにもかかわらず、被用者保険から国民健康保険への移行がみられるため、その適正化につき十分な対策を講じること。
- 各種医療費助成制度等市町村単独事業の実施に伴う療養給付費負担金及び普通調整交付金の減額措置を廃止すること。
- 特定健康診査・特定保健指導に対して十分な財政措置を講じるとともに、実施率等による後期高齢者支援金の加算・減算措置を撤廃すること。
- 都道府県調整交付金の交付に当たっては、地域の実情を十分考慮すること。

## ■現 状

北海道特有の気候条件から生まれる季節労働者数は、本市においても年々減少傾向にあるものの就業者数の 2.95%となっております。

そうした中で、昭和 52 年度から実施された季節労働者の雇用促進を図るための雇用対策が平成 18 年度で終了し、新たに平成 19 年度から「通年雇用促進支援事業」が実施されておりますが、雇用保険の「特例一時金」が減額されるなど中高齢の季節労働者の生活の維持が厳しい状況となっております。

## ■課 題

季節労働者の雇用の安定は、地域経済にとっても極めて大きな影響を与えるものであり、冬期雇用の拡大、通年雇用化対策の充実・促進等、季節労働者対策の強化が強く求められております。

## ■要望内容

- 冬期雇用の拡大や通年雇用化対策の充実・促進などの季節労働者対策の強化

## ■効 果

- 北海道特有の積雪寒冷という気候条件が冬期間の産業活動に著しい制約を与えている状況下で、国が一律に冬期雇用の拡大、通年雇用化対策の充実・促進等、季節労働者対策を講じることは、地域における季節労働者の通年雇用を促進し、地域経済の発展に寄与する。

## ■現 状

当市が属する東胆振圏域における医療は、苫小牧市立病院と王子総合病院を中心として各医療機関の連携の下、地域住民に安定した医療の提供を行っているところでありますが、医師の地域偏在や特定診療科の医師不足が継続している状況にあります。

## ■課 題

依然として地域における特定診療科の医師及び看護師等の不足が継続している状況にあります。

## ■要望内容

(国)

- 医師、看護師等の不足の解消や地域ごと・診療科ごとの医師偏在の是正を図るため、地域が必要とする医師等の養成に向けた取組を着実に推進すること。
- 公的病院については、地域の実情に応じた医療ができるよう、十分な財政措置を講ずること。

(北海道)

- 救急医療体制を担っている初期、2次、3次の医療機能を十分発揮できるよう、引き続き必要な指導、調整を行うこと。
- 医師の確保については、地域の医療機関への医師派遣体制をさらに推進する等、より一層、実効性のある各種対策を強力に進めること。

## ■効 果

- 地域に安定した医療を提供することが可能となる。

# 樽前山火山砂防事業の促進について

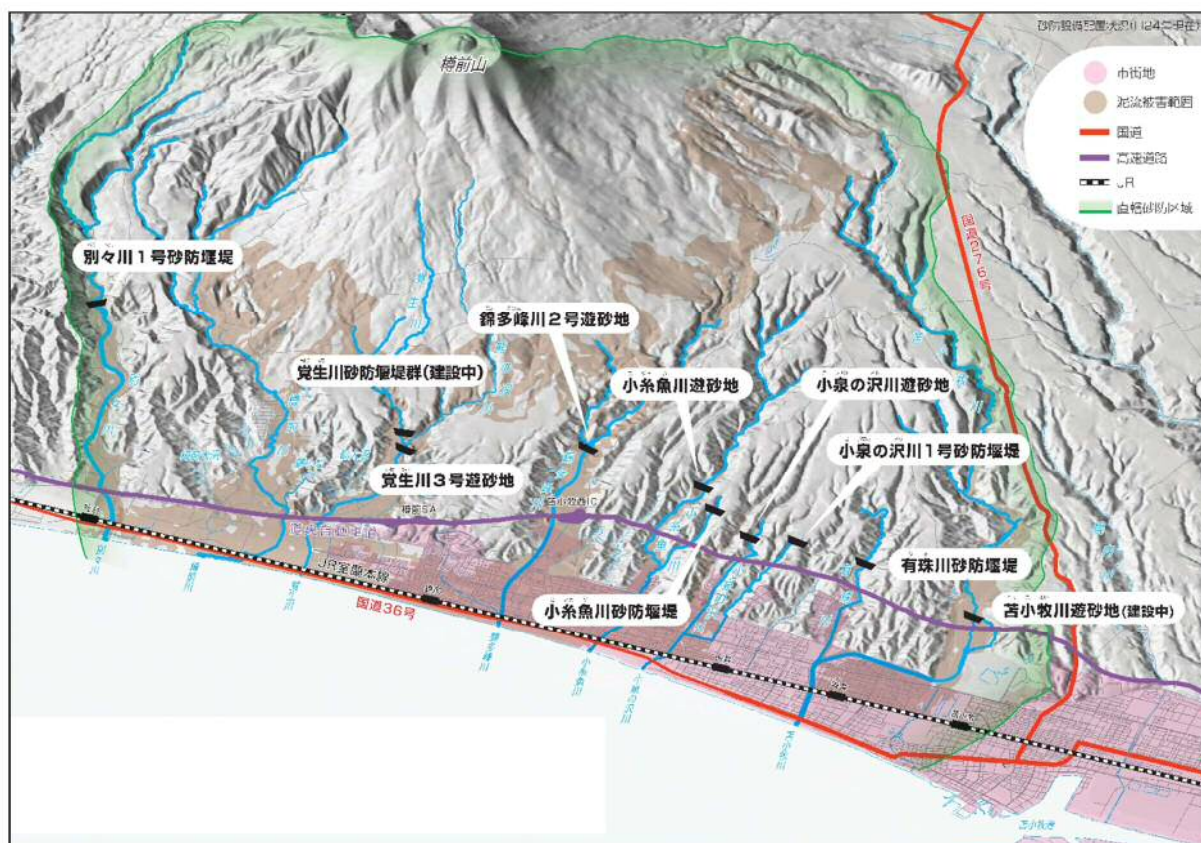
継続要望

## ■現状と課題

樽前山火山砂防事業は、樽前山の火山噴火に伴う泥流による被害の軽減を目的に、平成6年度に国の直轄事業として着手され、これまでに遊砂地4箇所と砂防堰堤3箇所を整備し、現在は、苫小牧川遊砂地と覚生川1号・2号砂防堰堤の整備が進められておりますが、更なる事業の促進及び地域に対する早期の安全確保が求められています。

## ■要望内容

### ●樽前山火山砂防事業の更なる事業促進



## ■効 果

### ●火山災害に対する市民生活の安全確保

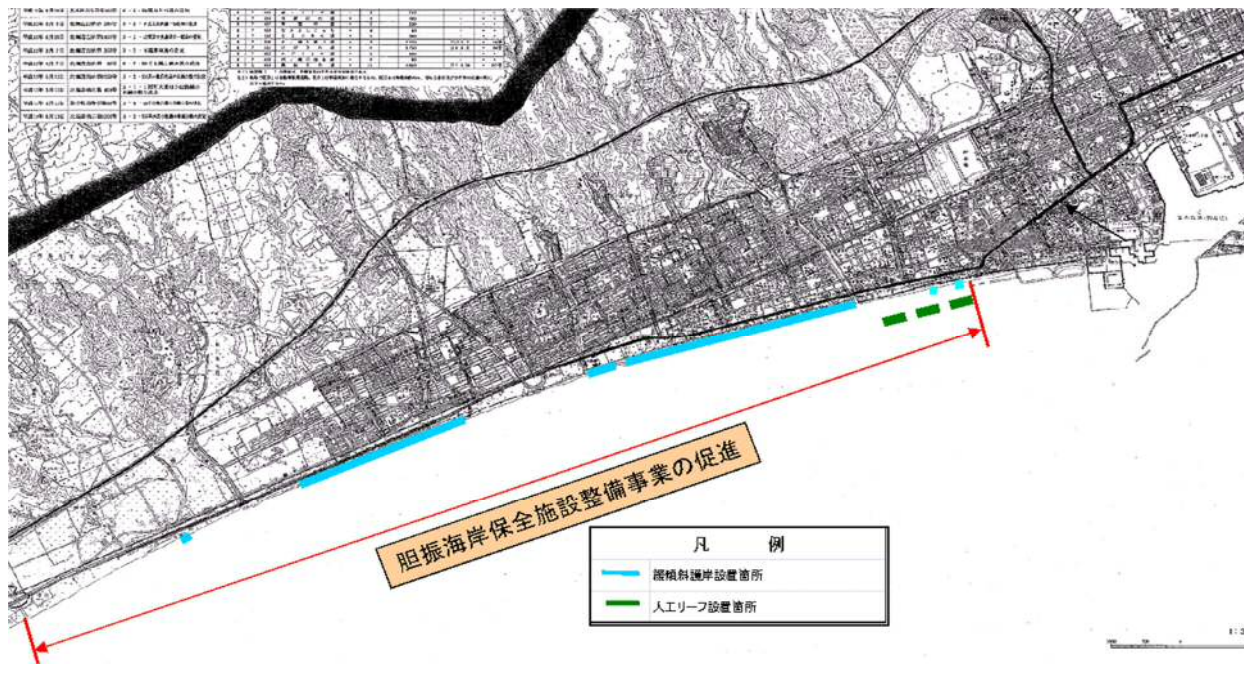
## ■現状と課題

胆振海岸保全施設整備事業は、当市から白老町の海岸について、侵食防止による国土保全と高波による衝撃や越波など災害防止を目的に、昭和63年から国の直轄事業として緩傾斜護岸や人工リーフが整備されています。

整備済みの地域では、海岸侵食や住民被害が解消し、さらには海辺の環境も整ってきておりますが、残りの未整備区間は依然として波浪による影響を受けており、地域住民からは早期の整備が求められています。

## ■要望内容

### ● 未整備区間の整備促進



## ■効 果

- 海岸浸食を防止し、市民の安全性を確保
- 波の打上げや越波による振動・騒音などの軽減
- 市民の憩いの場となる海辺の環境を創出



## ■現 状

当市は、苫小牧港と新千歳空港のダブルポートを擁する優れた地理的条件を背景に、北海道を代表する物流拠点都市として重要な役割を果たしており、道央経済圏はもちろんのこと、道東地域への物資流通や広域観光ルートの拠点として、さらなる発展が期待されております。

日高自動車道は、平成24年3月17日に日高富川ICから日高門別IC(5.8km)が開通し、計画総延長約120kmのうち、現在の共用区間は45.7kmとなっております。

## ■課 題

胆振・日高地域の可能性を高めるとともに、圏域外交流の拡大や広域観光ルートの整備、安全性・高次医療機会の確保、災害時における代替道路の役割等の観点からも、高規格幹線道路(日高自動車道)の早期整備が求められております。

## ■要望内容

- 北海道縦貫自動車道に接続する苫小牧－浦河間（約120km）の建設の促進
  - ・道路整備に必要な予算の安定的な確保
  - ・事業化区間の全線早期完成
    - 日高門別～厚賀間（門別厚賀道路）14.2km
    - 厚賀～静内間（厚賀静内道路）15.0km
  - ・計画区間の新規事業化に向けた調査促進
    - 静内～浦河間 約41.0km
  - ・苫東道路における付加車線の早期完成
    - 沼ノ端東～苫東中央間、苫東中央～厚真間
  - ・厚賀静内道路の耐災害性の向上

## ■効 果

- 災害に強い交通ネットワークの形成
- 高次医療施設へのアクセス向上
- 物流の効率化

## ■現 状

苫小牧地区は交通の要衝として運輸業が集中するため車両保有台数が多く、室蘭運輸支局で取り扱う登録自動車台数の約 50%を占めており、また地理的にも胆振・日高地区の中央に位置していることから、迅速で効率的な車両運行管理が求められる陸運業務を行うには最適の地にあります。

現在、室蘭運輸支局では遠隔地（道路距離40km以上）の利用者の利便を図るため、苫小牧地区自動車整備協同組合の検査場を会場に出張検査登録を実施しております。

なお、苫小牧港における海運行政は、北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所で業務が執行されております。

## ■課 題

地方運輸局組織の再編のほか、自動車性能等の向上や自動車使用者の負担軽減などから定期点検項目等の見直しや申請手続きの簡素化等が検討されており、運輸支局等の業務体制の効率化を図る方向に進むと予想されます。

こうした中、新たな支局設置の可能性は極めて困難な状況であるので、今後、港管理組合で行っている苫小牧海事事務所の運輸支局への昇格要望と協調を強めていく必要があります。

## ■要望内容

- 海運業務と陸運業務を一体化した組織体制である「苫小牧運輸支局（仮称）」の設置

## ■効 果

- 新たな支局の設置により、支局に対する許認可業務の負担軽減や車両運行管理の効率的かつ迅速な対応が実現するとともに、苫小牧港の取扱貨物量増加に伴う海運・陸運関連業務に対応する体制の強化につながる。

## ■現 状

新千歳空港の国際化につきましては、観光やビジネス、物流などにおいて、人やモノの交流を促進し、北海道の発展に大きく寄与するものであるとして、空港施設・機能の整備や国際航空路線の維持及び新規路線の誘致などに積極的に取り組んでまいりました。こうした中、平成26年に中国最大のLCCである春秋航空や香港航空の定期就航などを背景に、国際線出入国者が3年連続となる過去最高の155万人を記録するなど、我が国の北のゲートウェイ空港として着実に発展を続けています。

## ■課 題

新規路線開設に向け、戦略的な誘致活動を展開することが必要であるとともに、運休路線については、情勢を見極めながら路線再開に向けた取組を進め、既存路線の維持に向けた各種取組を行うことが求められております。

また、国際航空路線の裾野を拡大するとともに、開設路線における航空需要の一層の拡大を図ることが重要であります。

## ■要望内容

- 中国など一部海外航空会社に対する乗入曜日等の制限の更なる緩和
- 1時間当たりの最大発着数（現在32回）の拡大
- 国管理空港における着陸料軽減措置の継続及び拡充
- C.I.Q体制における利用者の利便性向上
- 国際航空路線の利用促進に資する外国人観光客に対する更なる査証免除措置又は要件緩和
- 滑走路延長事業の着工

## ■効 果

- 新千歳空港は国際空港としてのポテンシャルが極めて高く、今後、北海道の発展のみならず、我が国全体の成長戦略に大きく寄与することが期待できる。

## ■現 状

平成 22 年 5 月「国土交通省成長戦略」の柱として示された「航空分野」の「民間の知恵と資金」を活用した空港経営の抜本的効率化のため、平成 22 年 12 月に国は「空港運営のあり方に関する検討会」を立ち上げましたが、国会での継続審議や衆議院解散に伴い法案は一旦廃案になりました。

新政権において、平成 25 年 7 月に「民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する法律」が施行され、この法律に基づく基本方針が告示されている状況であります。

今後、北海道は国内では事例が無い空港民営化について、仙台空港の先行事例を基に道内空港のあり方などについて検討を行っていくこととしております。

## ■課 題

北海道は、空港経営改革にあたり「空港運営に関する有識者懇談会」を立ち上げ、この中で一定の論点整理がされており、その一つに空港経営改革に向けた対応として「複数空港の一体運営(バンドリング)」が示されております。

バンドリングにより新千歳空港が道内の赤字空港を抱えることで、新千歳空港の体力低下に繋がり、新たな地方負担が生まれたり、環境対策に支障が生じることを、本市のみならず千歳市においても懸念しております。

## ■要望内容

- 北海道内の空港経営改革を進めるに当たっては、各空港の実情を踏まえ、地方への十分な説明と意見を踏まえるとともに、新たな地方負担や安全・環境対策に支障が生じることのないよう、慎重な検討を行うこと。

## ■効 果

- 道内空港の経営改善及び新千歳空港の発展が望めるため、これによる北海道経済の活性化にも繋がる。

## ■現 状

新千歳空港においては、平成 23 年度国際線ターミナルビルが全面リニューアルオープンしたことや格安航空会社(LCC)の就航などにより、平成 24 年度には国際線ターミナル利用者が 100 万人を突破し、年々増加する傾向にあります。

平成 26 年 国内線利用者数 17,718 千人(新千歳空港事務所)

平成 26 年 国際線利用者数 1,543 千人(新千歳空港事務所)

## ■課 題

増加傾向にある利用者の周遊を促進するうえでも、アクセス利便性の向上が不可欠であります。新千歳空港へのJR線の乗入れについては、現在、札幌方面からは新千歳空港駅まで単線で直結され、苫小牧方面からは南千歳駅で乗り継ぎをしなければなりません。

また、苫小牧市はもとより、北海道を代表する観光地である登別・洞爺湖温泉を含めた、胆振・日高圏からの空港利用客は、時間的・経済的に不便を強いられています。

## ■要望内容

- 北海道を代表する観光資源を有する胆振・日高圏の利便性向上と周辺地域の活性化を図るため、空港アクセスに関する調査の実施
- 当市や登別・洞爺湖温泉をはじめとした胆振・日高圏から新千歳空港へのアクセス向上策の検討・実施

## ■効 果

- アクセス利便性の向上により観光資源の利用や域内周遊が促進され、当市のみならず、胆振・日高圏の地域活性化が期待される。

# 北海道新幹線札幌延伸に伴う対応について

継続要望

## ■現 状

北海道新幹線については、平成 27 年度末に新青森・新函館北斗間、平成 42 年度末に新函館北斗・札幌間の開業が予定されており、本格的な新幹線時代の到来を迎えるにあたり、交流人口の増加など、経済活性化の起爆剤としての期待が全道的に高まっております。

そこで、胆振・日高(日胆)地域においても、北海道新幹線の開業効果を最大限に享受し、地域経済活性化につなげることを目的に、官民一体組織である「北海道新幹線×nittan 地域戦略会議」を平成 25 年 10 月に設立し、新函館北斗開業に向けて情報発信を通じた気運醸成などの取り組みを進めております。

## ■課 題

新幹線ルートから外れる日胆地域は、観光面の落ち込みや地域住民の交通利便性の低下などが懸念されており、日胆地域への誘客促進及び域内周遊における二次交通の確保が課題となっております。

## ■要望内容

- 北海道新幹線の開業効果を高めるための日胆地域の取り組みに対する支援
- 道内における FGT(フリーゲージトレイン)の導入に向けた調査研究の推進
- 長万部駅における在来線と新幹線のフラットホーム実現による乗り継ぎ利便性確保
- 在来特急の存続及び便数の維持確保
- 東室蘭～長万部間の全線複線化と電化の促進
- 運休状態にある JR 日高線の早期全面復旧に向けた支援

## ■効 果

- 地域住民の交通利便性の確保
- 観光客の乗継利便性の確保
- 地域経済の活性化



北海道新幹線×nittan 地域戦略会議  
ロゴマーク



## ■現 状

苫小牧東部地域の開発は、我が国の発展に重要な役割を担う国家的プロジェクトであり、また、北海道の産業構造の高度化を促進する先導的開発事業として、株式会社苫東をはじめ、関係機関が一体となって、開発推進に取り組んでいるところであります。本市といたしましても、港湾整備などの基盤整備や企業誘致活動などを積極的に進めています。当地域では、公的プロジェクトを核に企業等への一般分譲を推進することとしておりますが、長引く景気低迷から緩やかに持ち直しの動きが出てきてはいるものの、依然厳しい状況にあるとの懸念があります。

## ■課 題

苫小牧東部地域の着実な開発を推進するためには、開発の核となる公的かつ大規模なプロジェクトの導入が不可欠であります。そのため、国が策定した「苫小牧東部開発新計画の進め方【第2期】」（平成20年12月策定）やこの「進め方【第2期】」の「中間点検報告」（平成26年3月）に基づき、国主導による技術開発・実証研究施設など公的プロジェクトの早期導入に向けた具体的な推進計画となるアクションプログラムを策定し、公的プロジェクトの導入を具体的に推進するとともに、民間プロジェクトの導入促進に向けた規制緩和や優遇措置を講ずるなど、国に先導的な役割を果たしていただく必要があります。

## ■要望内容

- 開発の核となるプロジェクトの導入推進
  - (1) 公的プロジェクト導入に向けたアクションプログラムの早期策定とそれに基づく具体的プロジェクトの実現
  - (2) 試験研究施設・実証施設等の立地、特に、CCS大規模実証試験の実施に伴う企業・試験研究施設の立地並びにCO<sub>2</sub>の産業活用の検討
  - (3) 「大規模災害支援拠点の整備」の検討
  - (4) 雪氷冷熱を利用した食糧備蓄施設の立地
  - (5) プロジェクト推進の遅れに起因する関係機関の財政負担の軽減
- 大規模植物工場など民間プロジェクトの導入促進に向けた規制緩和や優遇措置など開発を推進するための多様な施策の展開

## ■効 果

- 苫小牧東部地域の開発が、迅速かつ円滑に推進されることで、企業誘致や様々な先進的なプロジェクト導入などによる経済効果、新たな雇用創出が考えられる。

## ■現 状

苫小牧港には、石油製油所や液化天然ガス製造プラント、火力発電所や日本最大の国家石油備蓄基地などが立地しているため、石油タンカーなど危険物を積載する船舶が多く入港しています。

また、北海道の海の玄関口として、カーフェリーやRORO船など国内外に週100便を超える定期船が就航しており、年間約1万4千隻もの船舶の入港により、海上貨物取扱量は全道の約半分を占めるなど、北海道はもとより日本国内の産業や生活を支える非常に重要な役割を担っています。

## ■課 題

ひとたび航路や臨海部で火災等の事故が発生すると、甚大な被害に繋がる恐れがあり、当港のエネルギー供給や物流機能が麻痺し、日本全体の産業活動などに多大な影響を及ぼしかねません。

また、当港は外国船舶の入港が多いことから、テロなどの危害行為を水際で防ぐ、海上警備活動が非常に重要であると認識しています。

防災体制の強化や迅速な対応と合わせ、船舶航行の安全確保、さらなる安全安心な地域づくりのための海上保安体制の強化、拡充が重要な課題となっています。

## ■要望内容

- 消防及び防災機能を装備した大型巡視艇の配備
- 第一管区海上保安本部室蘭海上保安部苫小牧海上保安署の海上保安部への昇格

## ■効 果

- 苫小牧港が北海道はもとより我が国の経済発展に重要な役割を果たしていることから、被災時の港湾機能不全の回避や港湾を利用する船舶の安全確保は、物流機能・災害時支援機能等、様々な面において効果がある。



## ■現 状

新千歳空港は、24 時間運用や国際線ターミナルビルの整備など国内・国際線の拠点空港として基盤を整えつつあり、また、千歳飛行場は、航空自衛隊の基幹飛行場としてその重要性が高まっています。

一方、離着陸機数の増加や運航時間の延長、航空自衛隊の通常訓練と政府専用機の訓練に加え、在日米軍再編に伴う訓練移転の開始により航空機騒音が増え、また戦闘機による事故も発生しており、空港周辺住民は、航空機騒音に悩まされるとともに、事故に対する不安を抱えながら生活している状況にあります。

## ■課 題

国土交通省・防衛省へ騒音軽減対策及び安全対策、空港・基地周辺対策を要望しているが、公共性や技術的な問題などがあり、早期実現が難しい部分があります。

また、飛行コースなどについては「航空法等を遵守し実施している」と回答されているが、飛行直下の住民からは、高度やコースが守られていないなどの声があります。

## ■要望内容

- 着陸時の住宅街での飛行高度並びに離陸時における通常の飛行コースを遵守すること。また、離陸時の住宅街を避けるコースの設定
- 運航自粛時間の飛行の抑制を徹底
- 低騒音機種への切替えを促進
- 外国貨物専用機の騒音軽減を引き続き指導
- 通常訓練の離着陸コースを遵守
- 訓練・演習の土・日・祝日の飛行を避けること
- 航空機の点検整備及び安全に対する隊員教育を徹底し、事故防止に努めること
- 住宅防音助成の対象区域・適用範囲の拡大

## ■効 果

- 新千歳空港及び千歳飛行場周辺住民の生活環境の改善
- 騒音軽減対策及び安全対策を講じることにより、住民の不安や懸念を払拭し住民理解が得られる。

## ■現 状

在日米軍再編関連の措置については、国防に関する国の基本的な政策であり、地方自治体として一定の理解を示す必要があるとともに、沖縄県に極度に集中する負担については可能な限り負担の軽減に協力しなければならないことなどを理由に、平成 18 年に市長が受け入れを判断し、平成 19 年から 26 年までに計 6 回の千歳基地における訓練移転が実施されております。

## ■課 題

沼ノ端地区の宅地開発などにより航路下地域の人口が増加し、多くの新規居住者は経験の無い航空機騒音により生活環境への影響を受けています。また、近年国内・国外で米軍戦闘機による事故が発生し、訓練移転の際に同機種の戦闘機が自宅上空を飛行することに不安を抱えながら生活をしております。

## ■要望内容

- 市街地上空での低空飛行を避けること
- 通常訓練の離着陸コースを遵守すること
- 運航自粛時間における飛行の抑制を徹底すること
- 訓練・演習における土曜日、日曜日及び祝日の飛行を避けること
- 航空機の点検整備及び安全対策に対する隊員教育を徹底し、事故防止に努めること
- 協定を確実に遵守すること
- 綱紀粛正の徹底など、住民に対する安全、安心対策に万全を期すこと
- 目的の沖縄の負担軽減について、明確な形で示すこと
- 通知は早期に行うこと

## ■効 果

- 千歳基地においては過去 6 回訓練移転が実施されておりますが、事件・事故等も無く終了しており、また、防衛省からは必要な情報提供もされている。

## ■現 状

美々川は、石狩低地帯における数少ない原始河川の形態をとどめ優れた湿原を形成し多様な生態系に富んでおり、ラムサール登録湿地であるウトナイ湖にとって、もっとも貴重な河川となっております。

北海道は、美々川自然再生事業計画が明らかになった時点で、保全地域指定の取り組みを再開するとしており、平成 19 年 3 月に計画案が「美々川自然再生技術検討会」で了承されたことから、同年 5 月に関係自治体との意見交換を行う「美々川流域自然環境保全方策検討会」を発足いたしました。これまで3度の会合を北海道主催で開催し、課題の検討を行ってきましたが、平成 21 年以降は開催されていない状況であります。

## ■課 題

美々川の周辺地域は新千歳空港に近く道路網の整備に伴い大型駐車場やレジャー施設などが建設されており、周辺環境が変化してきていますが、地域住民(千歳市駒里)の反対などもあり手続きが進んでいない状況にあります。

## ■要望内容

- 美々川流域の北海道自然環境保全地域への早期指定

## ■効 果

- 美々川流域の環境保全を図ることができる

## ■現状と課題

二級河川安平川水系美々川は、周辺地域の自然環境の保全と再生を目的として、平成 19 年に「美々川自然再生計画」が策定されました。

現在までに、源流部の湧水復元を目的とした試験施工や地下水位の調査が実施され、その後のモニタリングにより地下水位の上昇が確認されておりますが、湧水量の減少や水質・環境の悪化、ウトナイ湖を含む湿地面積の減少などの問題があるため、美々川自然再生事業のさらなる促進が求められています。

## ■要望内容

- モニタリングの継続実施
- 美々川自然再生事業の促進



## ■効果

- 健全な水環境の回復
- 多様な生態系の維持
- 豊かな自然と共生する地域社会の形成
- ラムサール条約登録湿地「ウトナイ湖」の湿地環境の保全

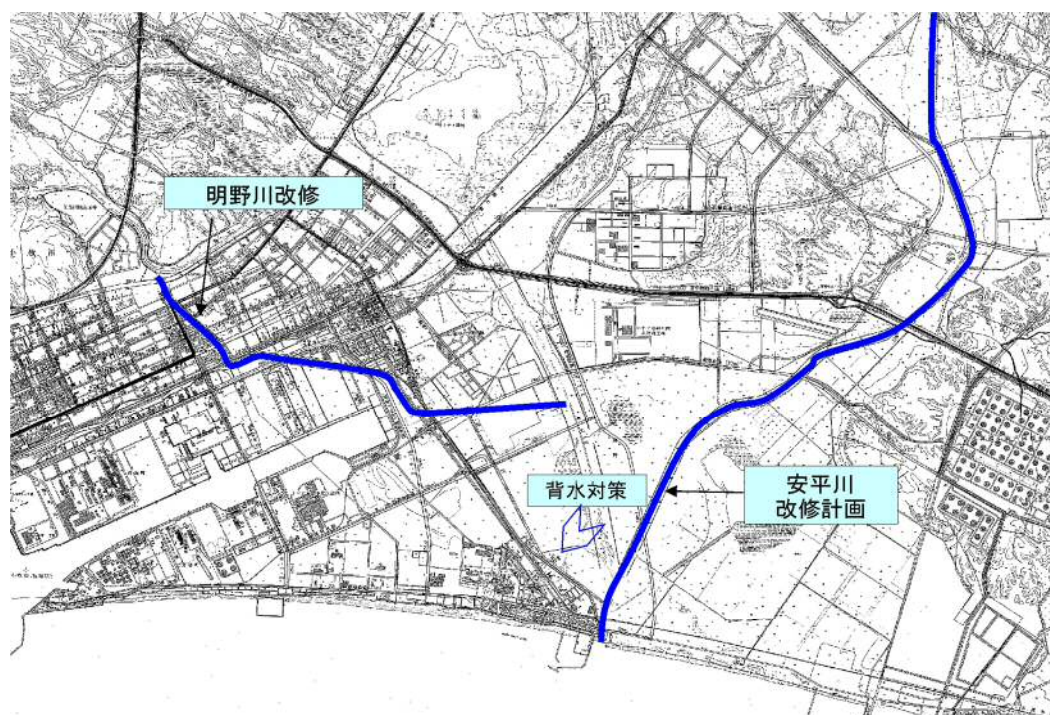
### ■現状と課題

市街化が進む明野東地区及び沼ノ端地区を流域に持つ二級河川明野川は、平成 26 年度に国道 36 号までの暫定掘削が完了したところですが、豪雨に対する市民生活のさらなる安全を確保するため、本流である安平川の改修と併せた明野川の早期改修が求められています。

二級河川安平川は、河口部が波浪により度々閉塞し、その背水影響により勇払地区で道路冠水が発生しており、平成 25 年度に河川整備計画が策定され、平成 26 年度に河道内調整地の位置・形状が決定されたところですが、下流部の湿地環境に配慮しつつ、早期の改修が求められています。

### ■要望内容

- 安平川下流部の湿地環境に配慮した早期改修と明野川の早期改修



### ■効果

- 明野川流域及び安平川流域の市街地における豪雨に対する市民生活の安全確保

# 苫小牧中央インターチェンジの設置について

継続要望

## ■現状と課題

苫小牧中央インターチェンジは、さらなる物流の効率化、東胆振や日高地方からの広域救急医療、さらには災害時の物資輸送など多くの効果が期待され、市民だけでなく地元経済界や物流業界、医療関係者などから早期実現への期待はますます大きくなっています。

現在、北海道によりインター設置に向けた調査や検討が進められているところですが、苫小牧だけでなく北海道民にとっても重要な施策であることから、早期実現を要望します。

## ■要望内容

### ●苫小牧中央インターチェンジの早期実現



## ■効果

- 市民生活の利便性向上
- 物流拠点としての効率化
- 広域救急医療体制の確立
- 高度防災機能の向上

# 苫小牧駅前交通広場の再整備について

継続要望

## ■現 状

駅前交通広場は、都市計画により 3・3・28 駅前中央通に『表町 6 丁目内に面積約 8,400 m<sup>2</sup>の「苫小牧駅前交通広場」を設ける。』として平成 9 年に整備されておりますが、現在の人口や鉄道利用者数等の推計や交通環境及び駅前バスターミナルを含む駅前周辺の土地利用など社会情勢が大きく変化していることから、駅前交通広場の規模も含め再検証が必要となっております。

## ■課 題

隣接する商業施設や駅前バスターミナルの老朽化、平成 27 年末に期限を迎える耐震改修診断を含めた今後のあり方、駅前の景観、交通動線の単純化や人と車の分離を検証すると共に、市民、事業者及び地域のニーズを調査検討したうえで高齢者・障害者を含む全ての人の利便性向上となる再整備を進める必要があります。

## ■要望内容

- 苫小牧駅前交通広場の再整備への支援



## ■効 果

- 駅前周辺における交通利便性及び地域経済の活性化が期待される。

## ■現状と課題

苫小牧東部地域と市街地・臨海工業地域を結ぶ幹線道路として、苫小牧東西両港の連携を強化するうえで重要な路線であり、平成 24 年に道道上厚真苫小牧線の臨海東通から中央ふ頭幹線までの約9Km 区間が供用開始されています。

苫小牧港は、内貿貨物の取扱いが全国一位であり、東港区は東アジアを中心とした海上コンテナ物流の拠点となっております。また、北海道の外貿コンテナ貨物の約7割強を取り扱っており、その取扱量が上昇傾向にあることや、平成25年にロシア極東航路が開設されたことから、さらなる物流基盤の強化とともに、通行車両による周辺環境への影響を最小限に抑えることが求められております。

## ■要望内容

- 都市計画道路 3・2・16 臨海東通の道道昇格及び早期整備  
(道道上厚真苫小牧線の整備延伸)



## ■効果

- 物流機能の強化
- 交通安全の確保と環境対策が図られる



# 都市計画道路 3・1・2 美沢錦岡通の道道昇格整備について

継続要望

## ■現 状

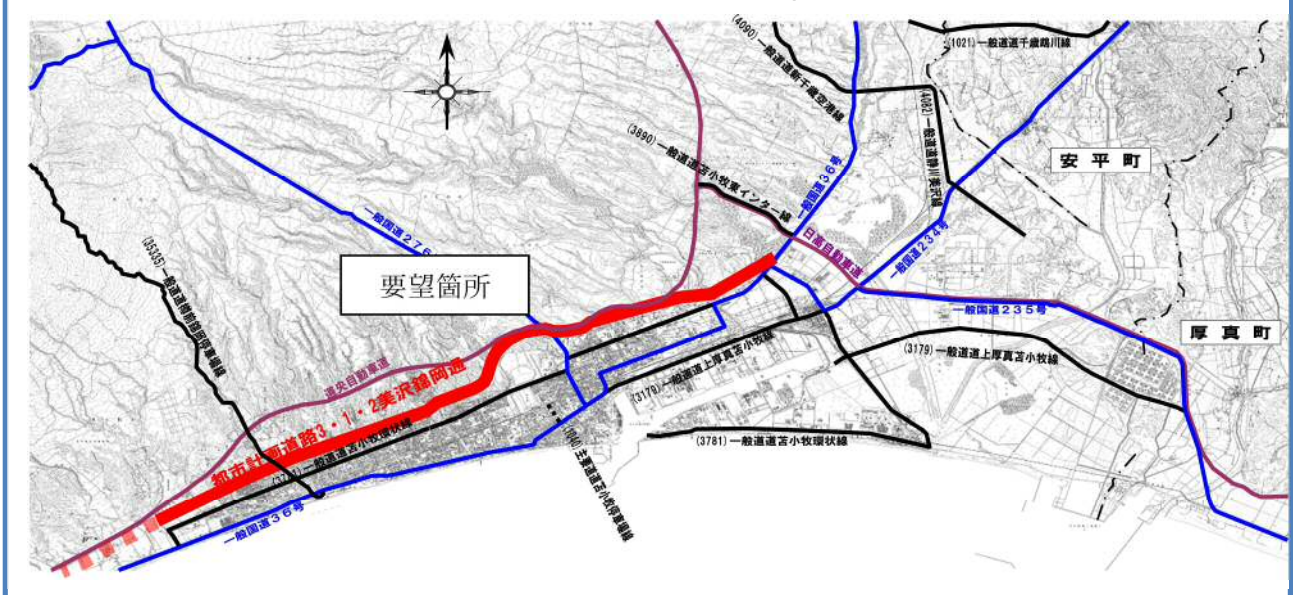
当市は、地形的に東西に細長く市街地が形成され、東部は港湾とその背後地の工業地域、西部は計画的に整備された住宅地域とに機能分化した都市構造となっています。そのため、東西間での相互交通が極めて頻繁に行われ、国道 36 号や道道苫小牧環状線といった幹線道路に、広域的な通過交通と生活交通が集中し交通利便性の低下を招いています。

## ■課 題

国道 36 号や道道苫小牧環状線など幹線道路の交通混雑解消のため、広域的な通過交通を市街地から排除するとともに、災害時における避難道路の複数確保による安全性の向上を図るため、東西方向の幹線道路の整備が求められています。

## ■要望内容

### ●都市計画道路 3・1・2 美沢錦岡通を道道として整備



## ■効 果

●国道 36 号等の幹線道路の混雑を緩和するとともに、災害時における避難ルートを複数確保することによる安全性の向上が期待される。

## ■現 状

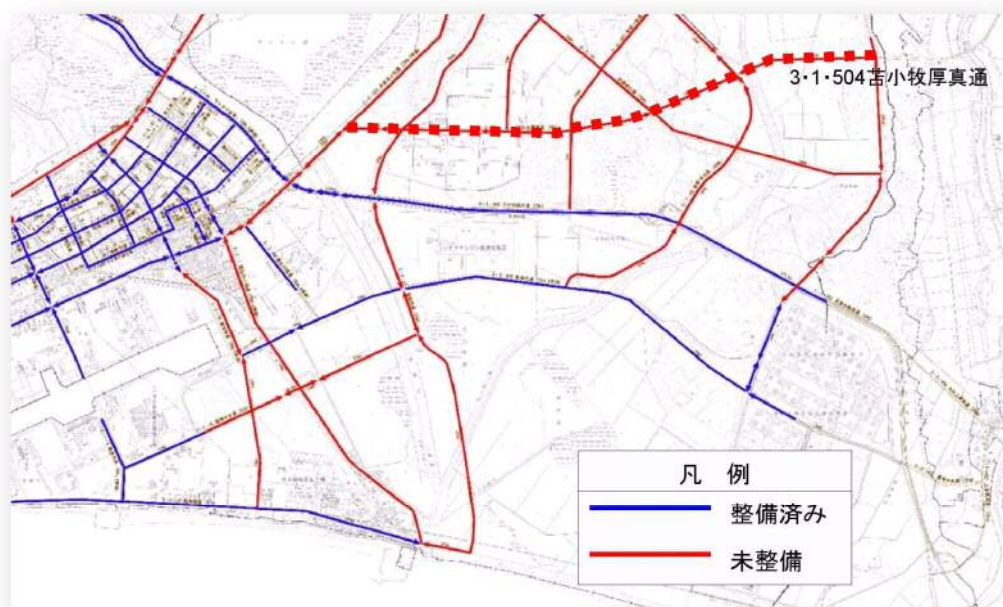
苫小牧市街地・苫小牧東部(苫東)地域・厚真町を結ぶ幹線道路である苫小牧厚真通は、苫東地域における産業活動又は研究活動を円滑に推進するための基盤路線として一部暫定整備をしておりますが、市域分のほとんどが未整備の状況であります。

## ■課 題

苫東地域内にはさまざまな業種、規模の企業も立地しており、近年は大規模植物プラントの建設や大型物流倉庫の新規計画など、苫東地域の発展に積極的な企業誘致を進める上でも、物流施設等の展開に対応した幹線道路の整備促進による交通ネットワークの構築が強く求められています。

## ■要望内容

- 都市計画道路 3・1・504 苫小牧厚真通を道道として整備



## ■効 果

- 苫東地域における産業活動や研究活動を円滑に推進するとともに、苫小牧圏における広域的な経済活動の展開が期待される。

## 苫小牧東部地域における苫東地域産業技術総合 支援センター（仮称）の早期設置について

継続要望

### ■現 状

苫小牧東部地域の開発は、我が国経済の発展に資する重要な国家的事業として位置付けられており、北海道の産業振興の上で重要な役割を担っております。

当市では、企業誘致のさらなる展開や同地域の開発促進とともに、ものづくり産業をはじめとする進出企業の工業技術レベルの向上を支援するため、苫小牧市テクノセンターの有効活用に努めております。

### ■課 題

苫小牧東部地域に研究開発拠点を形成することは、今後の企業誘致の展開、企業との技術的交流などにおいて非常に重要であり、また、本市テクノセンターを含め道央地域に設置されている技術支援機関、大学、高専、技専などとの有機的な結び付きがますます重要となっております。研究開発拠点の形成には、本市テクノセンターだけでは困難であり、研究開発機能や技術支援、設備投資への資金的支援、技術者育成支援など、総合的支援を果たす機関が不可欠です。

平成9年度に苫東地域産業技術総合支援センター基本構想(案)が取りまとめられてから15年以上が経過しておりますが、市議会においても議論されているところであり、方向性、事業化スキームなどが課題となっております。

### ■要望内容

- 苫東地域への苫東地域産業技術総合支援センター（仮称）の早期設置

### ■効 果

- 産業活動の活発化や人材育成等が図られ、さらには、企業誘致の呼び水的な役割を担うなど、当市のみならず、北海道経済全体の活性化につながる。

## 交番の新設について

継続要望

### ■現 状

ときわ・澄川地区を含む西部地域では、国道や道道の幹線道路、道央自動車道苫小牧西インターチェンジ等があり、交通量が多く、人口や世帯数も市内の4割近くを占めています。

当該地域における刑法犯の発生数は、平成26年12月末で市全体の約3割を占める状況となっています。

### ■課 題

西部地域には糸井交番と錦岡交番が設置されていますが、両交番とも管轄範囲が広く、空き巣や自転車盗、車上狙いなどの窃盗犯が多発していることから、多くの住民が地域の安全安心について危惧しており、長年にわたり交番の新設を求めています。

### ■要望内容

- ときわ・澄川地区に交番の新設

### ■効 果

- 西部地域に交番が新設され、警察活動が強化されることにより、地域の安全安心が確保される。

	頁
<b>総合政策部</b>	
1 JR特急列車の安定運行と日高線の早期復旧	3
2 苫小牧登別通(仮称)の道道昇格整備	6
3 社会体育施設の施設整備に係る財源措置の拡充と大規模改修に対する補助制度の創設	9
4 高規格幹線道路(日高自動車道)の建設促進	15
5 新千歳空港国際拠点空港化の促進	17
6 空港運営のあり方に関する検討	18
7 JR新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	19
8 北海道新幹線札幌延伸に伴う対応	20
9 航空機騒音対策の促進	23
10 米軍機の千歳基地移転訓練に伴う対応	24
11 苫小牧駅前交通広場の再整備	29
12 都市計画道路3・2・16臨海東通の道道昇格整備	30
13 都市計画道路3・1・2美沢錦岡通の道道昇格整備	31
14 都市計画道路3・1・504苫小牧厚真通の道道昇格整備	32
<b>市民生活部</b>	
15 国民健康保険制度の健全な運営	10
16 交番の新設	34
<b>環境衛生部</b>	
17 美々川流域の北海道自然環境保全地域指定	25
<b>健康こども部</b>	
18 室蘭児童相談所の分室の設置	4
19 地域医療の確保	12
<b>産業経済部</b>	
20 苫小牧港の港湾機能強化と整備促進	2
21 公的金融機関の設置及び昇格	7
22 東港区へのコンテナ検査施設の設置及び函館税関苫小牧税関支署の体制強化について	8
23 季節労働者対策の強化	11
24 北海道運輸局苫小牧運輸支局(仮称)の設置	16
25 苫小牧東部開発の推進	21
26 海上保安体制の強化拡充	22
27 苫小牧東部地域における苫東地域産業技術総合支援センター(仮称)の早期設置	33
<b>都市建設部</b>	
28 苫小牧中央インターチェンジの設置	28
29 国道の整備促進	1
30 樽前山火山砂防事業の促進	13
31 胆振海岸保全施設整備事業の促進	14
32 美々川自然再生事業の促進	26
33 二級河川の整備促進	27
<b>教育部</b>	
34 道立特別支援学校の設置	5